

令和4年度の業績

事業の展望と課題

当金庫の営業エリアの中心である横浜市は、令和5年1月1日時点の推計人口が前年同期比2,434人減少しました。市内の推計人口が戦後初めて減少した前年に続き、2年連続の減少となりました。また、長期化する低金利環境、競合の激化、不安定な国際情勢、デジタル社会の急速な進展などにより、経営環境の見通しは一層厳しいものになっています。

こうした中、当金庫は、地元事業者が抱える経営課題に向き合い、融資等のバンキングニーズにとどまらず、デジタル化や人材マッチングなどの本業支援や社会的な要請が高まっている気候変動対応などのSDGsに関する取組支援に金庫一丸となって取り組んでいきます。

中期経営計画ビジョン： 地域の成長と発展に貢献する総合サービス業への進化

基本戦略	戦略1	お客様価値を最大化する営業活動
	戦略2	「職員の成長・活躍」と「組織風土の改革」
	戦略3	経営資源の適正配分による経営基盤の強化

(令和3年4月から令和6年3月まで)

財務諸表

貸借対照表

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
現金	17,923	預金積金	2,033,569
預け金	501,492	借入金	21,500
買入金銭債権	24	コールマネー	467
金銭の信託	8,650	その他負債	4,664
商品有価証券	392	賞与引当金	895
有価証券	456,701	役員賞与引当金	20
貸出金	1,146,383	退職給付引当金	10,788
外国為替	2,270	預金退職慰労引当金	314
その他資産	10,901	預金払戻引当金	58
有形固定資産	21,888	偶発損失引当金	1,003
無形固定資産	3,076	再評価に係る繰延税金負債	1,105
繰延税金資産	5,172	債務保証	1,538
債務保証見返	1,538	負債の部合計	2,075,925
貸倒引当金	△4,691	(純資産の部)	
(うち個別貸倒引当金)	△3,079	出資金	1,702
資産の部合計	2,171,724	利益剰余金	98,393
		処分未済持分	△8
		会員勘定合計	100,086
		その他有価証券評価差額金	△3,097
		土地再評価差額金	△1,190
		評価・換算差額等合計	△4,287
		純資産の部合計	95,799
		負債及び純資産の部合計	2,171,724

損益計算書

科目	金額
経常収益	26,547
資金運用収益	21,767
役員取引等収益	3,523
その他業務収益	459
その他経常収益	796
経常費用	23,537
資金調達費用	379
役員取引等費用	1,442
その他業務費用	1,839
経費	18,570
その他経常費用	1,304
経常利益	3,010
特別利益	115
特別損失	20
税引前当期純利益	3,105
法人税、住民税及び事業税	966
法人税等調整額	37
法人税等合計	1,003
当期純利益	2,102
繰越金(当期首残高)	1,035
当期末処分剰余金	3,137

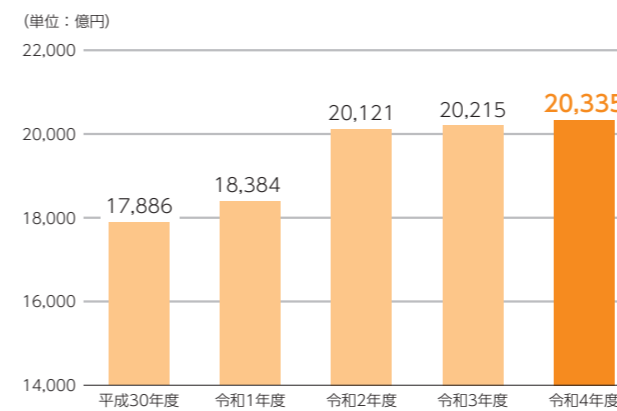
主な経営指標の推移

	平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	(単位)
経常収益	26,151,263	25,550,533	26,441,805	25,649,672	26,547,361	千円
経常利益	2,108,714	2,236,293	3,301,635	4,004,441	3,010,045	千円
当期純利益	1,410,098	1,814,894	2,542,162	2,886,871	2,102,011	千円
出資総額	1,822	1,797	1,772	1,743	1,702	百万円
出資者数	73,138	73,082	73,463	72,777	71,434	人
出資総口数	3,541,582	3,481,663	3,417,398	3,458,968	3,387,729	口
純資産額	99,350	97,020	102,934	102,058	95,799	百万円
総資産額	1,918,586	1,965,195	2,299,672	2,341,579	2,171,724	百万円
預金積金残高	1,788,682	1,838,404	2,012,135	2,021,555	2,033,569	百万円
貸出金残高	1,007,380	1,033,052	1,137,854	1,104,609	1,146,383	百万円
有価証券残高	491,413	488,597	491,974	489,491	456,701	百万円
単体自己資本比率	9.97	9.72	10.27	10.57	10.30	%
職員数	1,259	1,289	1,269	1,258	1,220	人

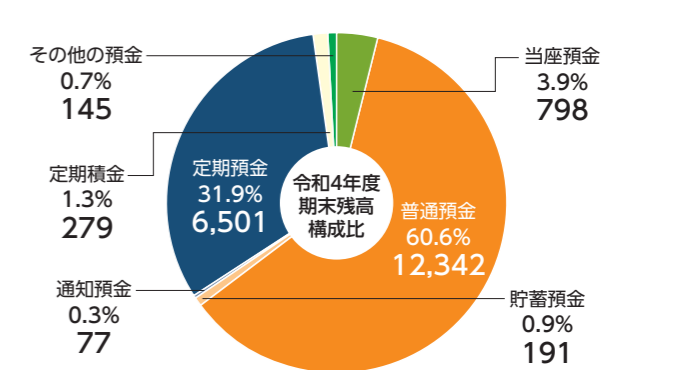
預金積金の状況 ⇒ 期末残高 2兆335億円

期末残高は前年度比120億円増加の2兆335億円となりました。

預金積金残高の推移



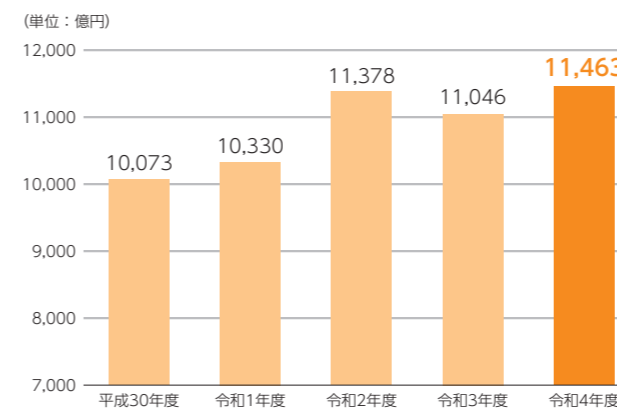
預金積金科目別残高



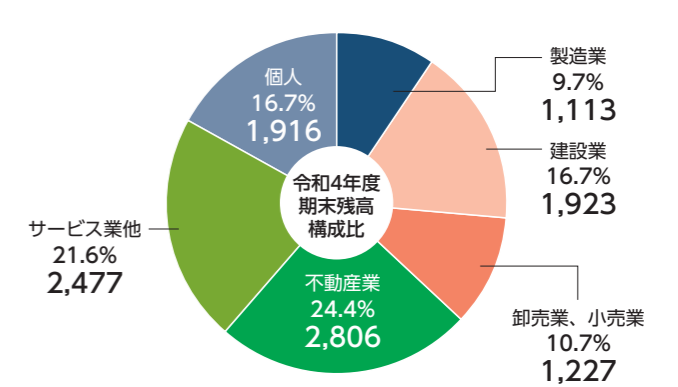
貸出金の状況 ⇒ 期末残高 1兆1,463億円

期末残高は前年度比417億円増加の1兆1,463億円となりました。特定の業種に偏ることなく、バランスのよい貸出を心掛けています。

貸出金残高の推移



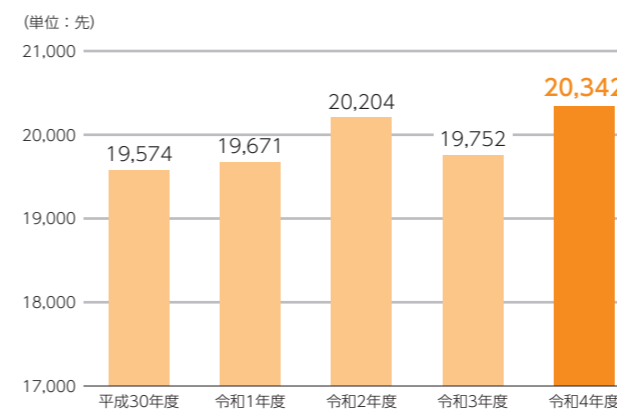
業種別貸出金残高



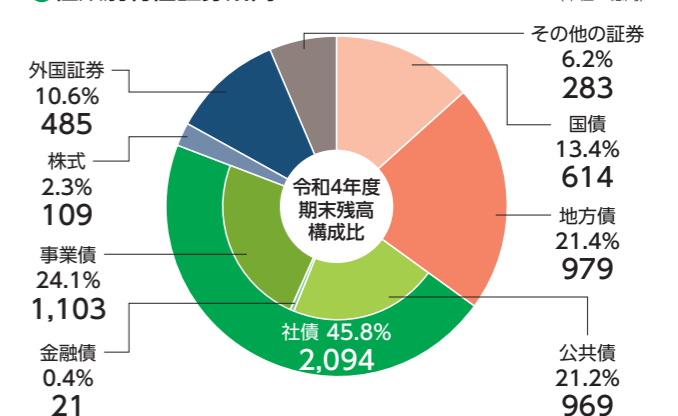
有価証券運用の状況 ⇒ 期末残高 4,567億円

国債、地方債、格付の高い社債等を主な投資対象として、安全性を重視した有価証券運用を行っています。

法人・事業者向け貸出先数の推移



種類別有価証券残高



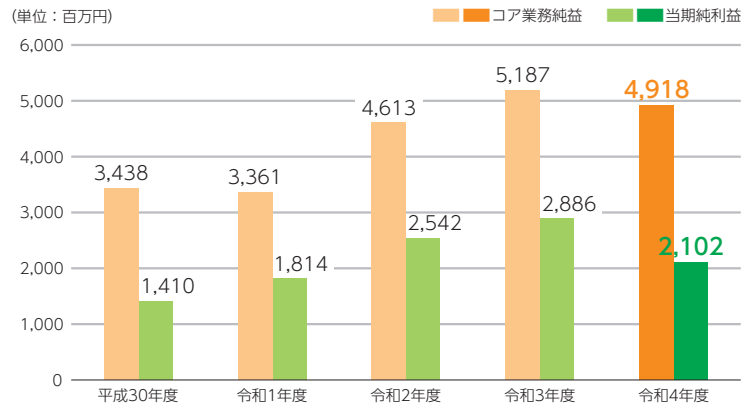
令和4年度の業績

■ 損益の状況 ⇒ 当期純利益 21億円

コア業務純益^(※)は、システム更改による経費の増加等により、2億円減少の49億円となりました。当期利益も7億円減少の21億円となっています。

※業務純益から一時的な変動要因を除いたもので、信用金庫の本来の業務活動による収益力を表しています。

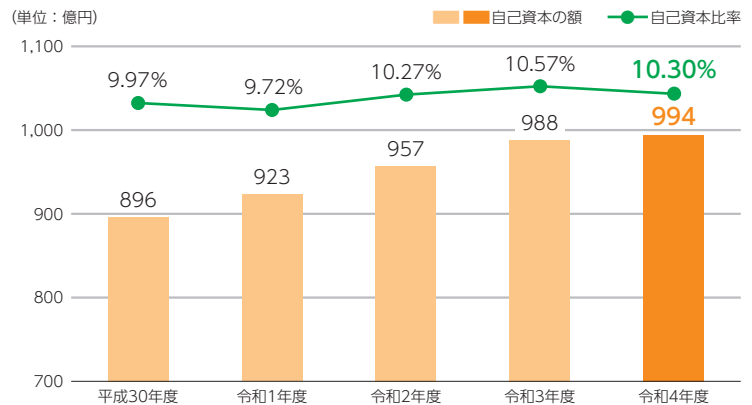
○ コア業務純益・当期純利益の推移



■ 自己資本の状況 ⇒ 自己資本比率 10.30%

自己資本の額は利益による積み上げなどにより前年度比5億円増加の994億円となりました。自己資本比率は貸出金の増加等により0.27ポイント低下し10.30%となりましたが、引き続き、国内基準（4%）を大きく上回る健全性を維持しています。

○ 自己資本の額・自己資本比率の推移



■ 不良債権の状況

不良債権額は前年度比114億円増加の594億円、不良債権比率は0.83ポイント上昇し5.16%となりました。なお、不良債権のうち、96.91%は担保や保証、貸倒引当金により保全されています。また、未保全部分についても、自己資本の積み上げがあり、不良債権に対する備えは万全です。

○ 不良債権額・不良債権比率の推移

